2025年3月度定例理事会　承認

2025（令和7）年度

事業計画書

2025年4月1日から
2026年3月31日まで

公益社団法人 日本ラクロス協会

2025年度事業計画書

【環境認識】

2024年度は、テクノロジーの進化によりスポーツの楽しみ方が多様化し、パリ五輪ではストリーミング配信の大幅拡大によって東京五輪比約2倍の視聴者を獲得しました。また、同五輪だけに留まらず、MLB・NBAなどのメジャースポーツにおいても、日本人選手の活躍が際立ち、各種配信サービスの充実により、よりリアルタイムでスポーツを楽しむ環境が整いつつあります。一方で、国内スポーツでも観戦体験に工夫がこらされ、特にスタジアム観戦市場は昨年比57.0％増と大幅に拡大しました。スポーツのコンテンツとしての価値が高まる流れが強まっています。

世界のラクロスでは、女子競技においてU20世界選手権大会（香港）で日本代表が過去最高位の3位を達成し、日本人審判も決勝戦クルーに選出されました。さらに、1月のアジアパシフィック選手権大会（豪州）では優勝を果たし、2025年のWorld Games、2026年の世界選手権大会に向けて着実な成長を遂げています。男子競技では、9月のBOX世界選手権大会（米国）に初出場し、短い準備期間にもかかわらず28チーム中8位という成績を収め、日本ラクロスの底力を証明しました。

国内では、各リーグ戦・選手権等の公式戦開催に加え、各地区での練習会・講習会の増加だけでなく、連盟活動等のフィールド外での対面コミュニケーション機会も拡大しました。JLA全体が活性化したことに加え、FPJ活動への注力の結果、会員数が増加に転じています。

日本ラクロスはこれまでにない変革期を迎え、様々な対応が求められる中、今年度は組織基盤をさらに強化し、2026年女子・2027年男子の世界選手権大会準備を本格化させ、着実に前に進める1年となります。

【基本方針】 Grow the Game＝日本ラクロス全体の長期的成長を目指し、それぞれの持ち場で成長する年

●成長に必要な3つのベースを継続整備する。

[インフラの整備・強化] ①各地区の管理業務の負担緩和（未実施地区への対応）、②倉庫（兼 コミュニケーションスペース）設置の検討、③全国会議などによる地区/部門横断的な交流機会の増加、④本部人員の強化（事業の急拡大と基幹業務の増大に対する人的リソース拡充）、⑤戦略的な予算投下（ジュニア、FPJ、集客・現場強化）、⑥地区の財源確保、等に取り組みます

[制度・仕組みの整備] ①各地区における部門の役割整理（強化部等）、②環境変化により役割が曖昧となった部門の再定義（普及部等）、③現状の組織では対応できない事柄に対応する仕組みの新設（強化協議会等）に取り組みます。

[成長のビジョンを描く] 各リーダーが、それぞれの現場に合わせ「ビジョン」を描くことを支援（国際大会招致、ジュニアラクロス推進、アジア交流、等）

❷重点施策

＜地区＞

[FPJの継続強化] 全ての活動の基盤になる新規会員獲得は継続して最優先事項であり、本部によるサポートを継続します。

[集客強化と観戦体験の向上] 各地区事務局・各連盟・MCの連携により、「観られるスポーツ」としての進化を目指します。

[指導者の質・量両面の強化] 新指導者制度のもと、指導者同士で連携し、学び、高め合うことができる環境整備に着手します。

＜本部＞

[ジュニア・若年層] ジュニア向け事業を推進します。（地区：体験会増・大会整備・チーム設立支援 ／ 本部：若年層の基盤整備の着手）

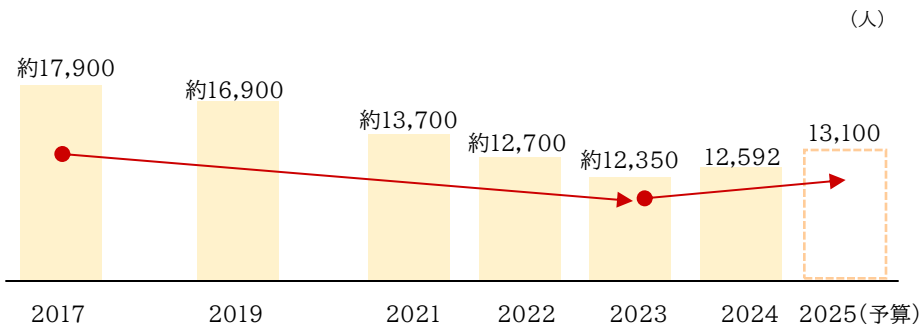
[広報、PR] 世界選手権大会にむけて継続強化します。また、五輪も見据え、日本代表を中心に社会一般でのラクロスの認知度が高まることを目指します。

[代表の戦略的強化] JOC加盟により受けられる支援を活用し、強化試合の充実、専門スタッフの拡充、テクノロジーの導入を推進するとともに、各代表チーム、各個人のコンプライアンスを高めます。また、五輪に向けてSIXES競技の特性について分析し、実践する場を設けます。

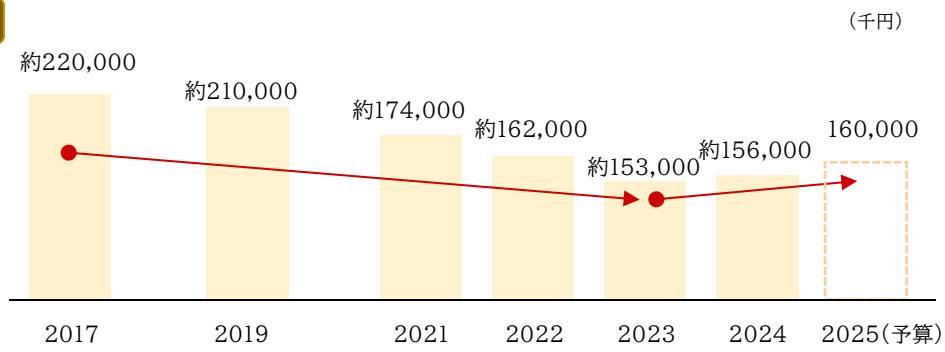
[世界大会組織委員会設置と実施計画立案] 2026年女子世界選手権大会の具体的プランの策定と準備に着手します。

【参考：当会概況】

競技会員数



会費収入



競技会員数・会費収入ともに、2017年をピークに減少し、特に2020年以降はコロナ禍の影響で大幅に落ち込んだ。2023年度は、ピーク時と比べ、競技会員数は約5,000人減、会費収入は約6,700万円減となったが、下げ止まり、2024年度には増加に転じた。その後も緩やかながら拡大が見込まれる。

【主要事業計画①】

事業	目的	概要	事業番号
審判	質の高い試合増加に寄与するための審判資格のクオリティ維持発展	1級審判員の継続的輩出に向けた若手審判員の育成に取り組みます。従来の育成プログラムに加え、競技性の向上に合わせた判断基準と、ゲームマネジメントを理解する審判員を増やすための教育プログラムの導入や、審判員の評価プログラム見直し等を継続して行います。また、指導者制度の整備、ジュニアラクロスやSIXES（6人制）、BOXなど幅広い年代と競技性に対応すべく準備していきます。	（1） （3）
指導者	指導者によるラクロス文化の啓発	新指導者制度の施行に伴い、指導者同士で連携し、学び、高め合うことができる環境整備に着手します。また、競技面だけではなく、指導者が中心となって、ラクロスが培ってきた主体性を重んじる文化を啓発していく基盤を、より強固なものにし、更にジュニア世代に対してもこうした文化を浸透させることにチャレンジします。	（2） （4）
選手育成	対面コミュニケーションと地区交流の活性化	引き続き、全国各地区において対面での主将研修や学連役員研修の実施を重視するとともに、他地区からでも参加できるオープン大会を、東北、関東、東海、関西で開催することで、大学チームの垣根や地区の枠を超えた交流を活性化します。	（4） （5）
普及	ジュニアラクロス普及の継続	「ジュニアラクロス」（U-12世代）の大会開催、および標準ルールの見直し等の基盤づくりを継続します。毎年12月に実施している大規模大会には全国各地から多くのチームが参加し、また、アジアからジュニアチームが継続来日するようになりました。今後も全国への更なる普及と国際交流の機会拡大に繋げます。	（5） （6）
大会運営	高度化した全国大会の運営力強化と　クオリティの高いリーグ戦運営	2026～27年の世界選手権大会を見据えつつ、Grow the Gameをテーマに、日本ラクロス全体の長期的成長を目指し、それぞれの持ち場で成長する年とします。全国大会の価値を高めると同時に、組織の土台である各地区リーグ戦運営に一層注力し、有料試合を増やしながらも観客動員増を目指すことで、ラクロスの「観るスポーツ」としての価値を高めます。また、マッチコミッショナー並びにゲームディレクターをはじめとする運営体制の更なる強化、夏季の暑熱対策を更に向上させ、安全な試合催行に着実に取り組みます。	（6）
日本代表	世界の上位国に迫る計画性のある代表強化	2026年女子、2027年男子の両世界選手権大会、そして2028年ロサンゼルス五輪にむけて選手発掘・育成を行い、世界の上位国（米国男女、カナダ男女、およびホーデノショーニー男子）に肉薄するための強化を行います。また、JOC加盟により受けられる支援を活用することで、より実効性のある強化プランを策定し、強化機会の充実、専門スタッフの拡充、テクノロジー導入の推進を目指します。	（6）

【主要事業計画②】

事業	目的	概要	事業番号
国際	国際交流事業の強化	中長期的に海外遠征者数を増やし、競技レベル向上と時代に合わせた国際交流を促進できるような体制を再構築します。国際大会の開催や、海外チームを積極招聘すると同時に、若年層の国際交流も展開し、長期的に国際社会で活躍できるような人材輩出に寄与します。また、JLA独自の視点でアジアラクロスの発展に貢献し、2026女子・2027男子に日本で開催される世界選手権大会の運営の一端を担えるよう、組織を拡充します。	（6）
世界選手権大会準備	2026世界選手権大会組織委員会の組成	30年ぶりの世界選手権大会開催に向け、World Lacrosseや各行政・自治体をはじめ関係各所と密に連携の上、運営基本計画を最終化し、出場チームへの連絡を開始します。また、大会運営の実行にあたり、日本ラクロスが培ってきた40年の経験と知見を結実させるため、多様な人材を登用し、2026年大会の組織委員会を立ち上げます。	（6）
マーケティング	ラクロス価値向上と協賛獲得	企業とのパートナーシップの形式として、National Team（日本代表）、Competition（選手権大会）、Culture（文化、競技外活動）については、一定の整備ができたため、それらの拡大を確実に推進しつつ、各地区においても展開が可能な枠組みを検討します。また、パートナー企業と連携し、日本ラクロスの価値を高めるスポーツアクティベーションに挑戦します。	（6）
広報	web事業の発信強化	世界選手権大会およびロサンゼルス五輪に向けた準備を進める中で、急務となる海外やメディア、さらには一般への情報発信を強化します。あわせて、JLA会員に対しても、正確かつタイムリーな情報を提供し、機運の醸成、コミュニティの活性化に貢献します。	（7）
安全対策	安全対策における組織力強化	医科学委員会内の3部会（安全対策部会、アンチ・ドーピング部会、アスリートパフォーマンス部会）の活動を軸に組織を強化し、ジュニアから日本代表まで、全てのカテゴリで安心・安全で高品質なラクロスを楽しめるよう安全対策を推進します。具体的には、全国のSG（Safety Guard）体制を整備し、SGのリーダーを担う人材を育成し、実地講習会やWEBセミナー開催等を用いて安全対策に関する啓発活動を行います。また、2026女子、2027男子の世界選手権大会の準備を支援します。	（7）
ガバナンス	実効性のある法人基盤整備	2018年の一般社団法人化以降、2022年8月に公益化、2024年11月のJOC正式加盟と、事業計画に基づき順調に「法人としての組織基盤の整備」が進んでいるといえる。今後の急速な事業の拡大を支えるため、より強固で透明性の高いガバナンス体制の構築を目指していく。	法人
戦略企画	中長期事業戦略の策定	2026/2027年の世界選手権大会の日本開催、2028年のロス五輪を経た後の、2029年における日本ラクロスの姿・情景を具体的に描くことを一歩目として、中長期戦略の策定に着手します。	法人

【JLAの公益目的事業番号】

〇資格付与
(1)審判資格認定事業

(2)指導者資格認定事業

〇講座、セミナー、育成
(3)審判養成事業

(4)選手育成事業

〇体験活動等
(5)初心者体験会事業

〇競技会
(6)大会開催事業(全国大会、国際親善試合、その他主催大会)

〇上記事業区分に該当しない
(7)広報普及活動

※上記番号は、公益認定申請書の記載内容に基づく。

【会員数】

会員種別	2024年度実績
競技団体会員	258団体
競技会員	12,592人
賛助会員（個人）	92人
賛助会員（団体）	9団体
協力会員	74人